

## 4 東海道「久努の松並木」(袋井市)



袋井市東地区旧東海道(県道)の保全された土塁に立ち並ぶ松並木 184 本

### 地域又は施設の概要、特徴等

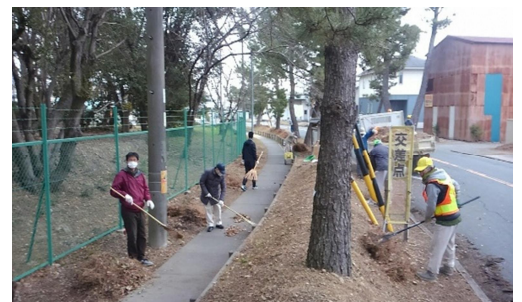
東海道「久努の松並木」は東海道五十三次どまん中「袋井宿」に近い市東地区の全長 2,760m に、住宅・事業所が隣接する形で所在しています。今年 7 月の調査での現存本数は 184 本です。当地には土塁が残されているのが特徴で、高い所では 1m もあります。松並木は冬には寒い風から守り、夏には暑い日差しを遮り木陰を与えてくれます。土塁に沿って歩道が築かれ児童の通学路として、また、市民、旅人、旅行会社のウォーキングコースとして利用されています。



旧東海道沿いに「松の木公園」新設

### 景観形成活動の概要、特徴等

平成 25 年から松並木沿いの通学路・土塁の草刈りを継続して実施する中で、地元有志の間で歴史的遺産でもある松並木保存の気運が高まり、「保存検討会」を立ち上げました。松並木の保存・継承の構想を練りあげ、地元住民説明会を開き、「袋井東地区まちづくり協議会」傘下の組織として、平成 29 年に「久努の松並木愛護会」を設立しました。愛護会は松並木の保存と隣接居住者の環境の保全を図ること目的として、松並木の清掃、松の補植、枝打ち、松一本ごとのデータベース化、視察研修、松・歴史に関する講演会の開催、等に取り組んでいます。また、県・市・弊会の三者間で締結したアダプトロードプログラム協定の役割分担に基づいて、官民一体となった活動をしています。



会員・住民による松並木清掃



幼木松を補植(今年 20 本)